

2020年 自治医科大学 高校生小論文・スピーチ動画コンテスト

作品
募集

応募締切 2020年 7月19日

小論文・スピーチ動画 テーマ

2030年の地域医療： 何を守り、何を創るか

ちいきを診る

入賞者を地域医療体験プレキャンプ（今年度はWEBセミナー形式を予定）にご招待！

【応募資格】

国内の高等学校に在籍している生徒（1～3年生）

【賞】

大賞（各部門1名）

地域医療体験プレキャンプ招待*、図書カード10万円分

優秀賞（若干名）

地域医療体験プレキャンプ招待*、図書カード5万円分

入賞（両部門総計20名）

地域医療体験プレキャンプ招待*、図書カード千円分

佳作（80名）

図書カード千円分

*大賞・優秀賞は入賞者の中から選考し、表彰式にて発表します

【大賞・優秀賞発表 表彰式】

2020年 9月 19日（土）午後

7/19
〆切

高校生小論文・スピーチ動画コンテスト

9/19

地域医療体験プレキャンプ（コンテスト入賞者
20名）WEBセミナー形式を予定

後日

地域医療派遣（選拔者 若干名）

読売新聞の早期医療体験プログラムと連携して企画

※7/30～31に予定していたプレキャンプは、今年度においては9/19に内容を変更して実施する予定です。日程変更の為、大賞・優秀賞の選考における参加を必須とはいたしません。ただし、地域医療派遣プログラムへの選考を希望する場合は、プレキャンプへの参加が必要となります。



自治医科大学
Jichi Medical University

後援：読売新聞東京本社

■問い合わせ先

〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-1
自治医科大学 学事課「小論文・スピーチ動画コンテスト」係
Tel : 0285-58-7045 Fax : 0285-44-3625
E-mail : jichinyu@jichi.ac.jp

2020年 自治医科大学 高校生小論文・スピーチ動画コンテスト

このコンテストは、次世代を担う高校生の皆さんと一緒に、身近な地域医療のあるべき姿を考えたいとの思いから始まりました。入賞者は地域医療体験プレキャン（今年度はWEBセミナー形式を予定）に招待します。さらに今年から、入賞者から選抜の上、後日開催する地域医療派遣に参加できます（日程は別途調整。派遣先は隠岐〔島根県〕を予定）。

【テーマ】2030年の地域医療：何を守り、何を創るか

【募集内容】

- ・小論文： 文字数1,200字以内の上記課題に関する小論文。
- ・スピーチ動画： 上記課題についてのスピーチ風景*（90秒以内）を撮影した動画。
* 白板やパソコンなどを使用せず、口頭での説明を行って下さい。

【募集期間】

- ・2020年4月1日(水)～7月19日(日)

【応募方法】

- ・オンライン（小論文・スピーチ動画）もしくは郵送（小論文のみ）での応募を受け付けます。
※詳細は自治医科大学ホームページ内の「高校生小論文・スピーチ動画 コンテスト」ページの手順に従って応募してください。

【注意事項】

- ・応募は、1名につき「小論文」か「スピーチ動画」のどちらか一方のみとし、またグループでの応募は認めません。
- ・応募は、応募者本人が日本語を用いて行った作品で未発表のものに限ります。
- ・本コンテストへの応募作品を他のコンテスト等へ重複して応募することは認めません。
- ・応募作品の著作権は、自治医科大学に属します。
- ・本コンテスト入賞者の中から大賞・優秀賞を選考するため、本学での地域医療体験プレキャン（今年度はWEBセミナー形式を予定）への参加を必須としておりますが、今年度に限り、参加必須の条件は設けないことといたします。
ただし、地域医療派遣への選考を希望する方は、プレキャンへの参加が必要となります。
- ・地域医療派遣への参加は任意です。詳細は入賞者にお知らせします。
- ・通信環境のないプレキャン参加者については、機器貸出等の対応をする予定です。
- ・応募作品の中で他の著作物を引用する場合は、その箇所を明らかにしてください。
- ・他の著作物からの盗用（全部、一部）が確認された場合は、失格とし、所属高校にその由伝える場合があります。
- ・小論文に図表を付ける場合、2つ以内とします。図表のタイトル、参考文献一覧などは、字数に含まれません。

【入賞者の発表】

- ・自治医科大学ホームページで計20名の入賞者を発表し、本人には郵送でお知らせします。
※入賞者の氏名・学校名・学年および作品を公表することをあらかじめ了承してください。

【表彰式・地域医療体験プレキャン（WEBセミナー形式を予定）】

- ・2020年9月19日（土）午後

審査委員長



永井 良三
自治医科大学 学長

1974年 東京大学医学部卒業。医学博士。1983年 米国バーモント大学留学。2003年 東京大学医学部附属病院病院長。2012年より現職。2019年より宮内庁皇室医務主管。ヘルツ賞、日本医師会医学賞など多数受賞。

特別審査員



武藤 真祐
医療法人社団鉄祐会 理事長

1996年東京大学医学部卒業。2014年 INSEAD Executive MBA。東大病院、三井記念病院にて循環器内科に従事後、宮内庁で待医を務める。東京医科歯科大学医学部臨床教授、第2回イノベーター・オブ・ザ・イヤー、武見奨励賞受賞。



本田 麻由美
読売新聞東京本社
編集局生活部 次長

医療情報部、社会保障部などで主に医療・介護の取材を担当し、認知症や在宅医療の企画を手がけてきた。2002年に乳がんが見つかり、治療を続けながらコラム「がんと私」を朝刊で6年間連載し、国内外の医学記事賞を受賞。厚生労働省厚生科学審議会委員、東大大学院非常勤講師（医療コミュニケーション学）なども務める。



町 亜聖
フリーアナウンサー

1995年に日本テレビにアナウンサーとして入社。その後、報道キャスター、記者としてがん医療、医療事故、難病などの医療問題や介護問題などを取材。2011年にフリーに。母の介護、母と父をがんで亡くした経験をまとめた著書「十年介護」（小学館文庫）は大きな話題を呼んだ。文化放送、ニッポン放送で番組を持つ他、医療、介護問題についての執筆活動も行う。

審査員（自治医科大学教員）

（五十音順）

青山 泰子 准教授（社会学）
秋根 大 助教（保健センター）
浅田 義和 講師（情報センター）
上田 真寿 講師（患者サポートセンター）

遠藤 和洋 講師（先端医療技術開発センター）
小坂 仁 教授（小児科学）
川平 洋 教授（メディカルシミュレーションセンター）
久保 太郎 助教（腎臓外科学部門）

柴山 修哉 教授（生物物理学）
清水 敦 准教授（緩和ケア部）
高瀬 堅吉 教授（心理学）
福嶋 敬宜 教授（病理診断部）

